

発行： 開発教育協議会

東京都新宿区西早稲田2-3-18-61

電話 03-3207-8085

## 定期総会 東京の青少年総合センターで

もうすでに会員の皆さんにはご案内を差し上げていますが、今年の定期総会は5月18日の午後、東京都渋谷区の国立青少年総合センターで開きます。会員でない方もお誘いのうえ、ぜひご参加ください。

### 幼稚園や保育所での開発教育ゲーム

五歳以下の幼児を対象に、想像力を刺激しながら身体のバランス感覚を訓練するゲームがある。ゲームの意図は、世界には水を手に入れるために大変な労働をしている子どもたちがたくさんいることを知り、自分たちの境遇に感謝の気持ちをもつこと。

リーダーは子どもたちに、水はどこで手に入れるかを聞く。コップ、お風呂場、水道、雨、川、池……そしてアフリカ、スーダンの女の子、エスターの次のような話をする。手に入るならば、アフリカの子どもたちの水汲みの写真などをみせるとよい。

エスターは毎日1時間も2時間も歩くのよ。家中の人が飲んだり、料理をしたり、洗濯したりするのに必要な水を汲みにいくの。水はあまりきれいでないけれど、きれいな水はもっと遠くへ行かないと汲めないのがまんするのね。汲んだ水はカメに入れて頭に載せて運ぶの。水を入れるとカメはとっても重くなるのよ。エスターはよっとこせと力をいれてカメを頭に載せて歩きだすの。カメを頭に載せて歩けるかな。お家までは遠い遠い道で、坂があったり、石ころだらけだったり、大変なの。

リーダーは身振りをまげながらこういう話（適宜に修飾）をして、子どもたちにエスターになったつもりでカメを頭に載せて歩こうと

誘う。

お手玉を水の入ったカメに見立てる。遊び場あるいは室内に椅子、箱、おもちゃなど適宜な材料を広げて、ここは坂道、ここは滑りやすいところ、などと難所を設ける。みんな重いカメを頭に載せたつもりでお手玉を頭に載せ、落とさないように、難所は難所らしく歩いて遊ぶ。

終わったら子どもたちに水の入った重いカメを頭に載せてあるいて家に帰るのはどうだったかと、問いかける。適当な水にかかわる歌があればそれを歌ってしめくくるとよい。

（イギリスのY CARE INTERNATIONALでテスト中のゲーム。これを試した方はその様子をお知らせください）

### アフリカに今年も飢餓の恐れ

ユニセフ、世界食糧計画など国連の諸機関がアフリカの飢餓救援を緊急に呼びかけている。

マスコミでは、ソビエトのスーパーマーケットの棚には食料がおかれていないとか、湾岸戦争による難民の食糧事情が伝えられるが、アフリカでは数千万人の人命が食糧不足で危機にさらされているというニュースは、あまり人々の目に入らないようだ。アンゴラ、モザンビーク、スーダン、ソマリア、エチオピア、リベリアから干ばつと飢饉そして内戦による飢餓が報告されている。

エチオピアでは収穫期であるこの九月まで、430万人が食糧援助を必要としているという。エチオピア、ソマリア、スーダンに内戦によって食糧援助が必要としている人々に届けることが困難になっている。ユニセフなどの国連機関は休戦期間を設けたり、平和の回廊を設定したりして、食糧などが援助を必要としている人々に届けられるように努力している。

三十年続いているエチオピアの内戦で近來優勢を伝えられている人民解放戦線側は、政府側の戦略都市を食糧攻めにする作戦をとっていたといわれるように、内戦もまた長く続くエチオピア飢饉の大きな原因である。

スーダンでは不作が二年連続したので30万トンの穀物が必要とされているという。FAOの報告によると、干ばつがもっとも厳しかったのは西部地方だが、スーダンの南部でも政府側と反政府軍が戦っており、その間を縫って西欧諸国と国連機関による救援活動が続けられている。スーダンとエチオピアでは、ところによっては、1984-85年の飢饉に匹敵する悲惨事がみられるということである。

モザンビークでは人口の割以上になる190万人の農村人口が食糧援助を必要としている。内戦は目下休戦状態になっているようだが、中央部諸州の食糧不足が特にひどいようだ。

アンゴラの食糧危機は昨年の十一月に国連事務総長が特別アピールをだしたほどであり、200万人が飢饉に苦しんでいる。最近のアメリカ合衆国国務省の発表によれば、南部の農業生産は75%も減少し、農村では木の根や来期用の種子まで手をつけているそうである。ここでも政府軍と反政府軍の協定で平和の回廊が設定され、食糧輸送が保障された。

一昨年からの内戦で、リベリアでは250万人の人口の半数以上が生活を破壊され、60万人が難民として近隣の国に逃げだしたという。ここでも110万人が食糧援助を待っているという。

### 経済成長は人類の発展をもたらすか

第三世界に長く住めば住むほど貧困の問題に巻き込まれる。そして多くの人々をますます貧しくさせ、環境破壊や人種対立を深めているのは、経済成長についての先入観であるといえそうだ。民衆に基盤をおく開発フォーラム会長、D.C.コーテンがそう書いている。

コーテンは経済成長至上主義者である世界銀行やIMF、世界の政治家さらにはブリュントラント委員会の言い分に疑問を持つ。彼らは、たとえば「貧困が環境破壊の真の原因であり、貧しいと資源を適正に利用する力を削ぐからである」「貧困をなくす方法は経済生産を向上させる以外にはない。既存の富を配分し直すのは政治的に不可能だからである」「豊かな国の経済成長は貧しい国の輸出を刺激し、貧しい国の成長を早めることになる」などという。豊かなものが豊かになれば貧しいものと環境の役に立つ、というのは本当だろうか。

貧しい人間が豊かな人間よりも多くの資源を消費しゴミをつくりだしているのはありうることなのだろうか。すべての人間の必要を満たすだけの十分な、環境上からも安定した資源がある、というのは本当だろうか。経済が成長すれば環境への影響は少なくなるというのは本当だろうか。どう考えても、もっと多くの資源をとというのは豊かな人間の要求であり、それが環境を破壊し貧しいものを一層の社会的、生態系的に絶望に追いやっている、という結論しかでてこない。

我々が適度な経済成長をすすめると、我々は生態系に過重な負担をかけ生態系の破滅をきたしていることの証拠を消すことになり、また今の資源消費を続けようとする、社会的・経済的な公正をという資源を僅かしか消費していない人々の願いを奪ってしまうことになる。これは我々の前にある矛盾だが、そのいずれも正しくないとする人たちが増えて

いる。我々には選択の余地は限られている。地球的規模で価値観を変え、資源の過剰消費者の資源に対する要求を思いきって減らし、貧しいもの（資源の過小消費者）に人間としての尊厳が維持できる程度の資源を優先的に消費させる、というのが結論である。こういう基本問題をきちんと議論すべきだとコーテンは主張している。

World Development Forum Vol 9 No 3から

### 食べ物を贈るのだけが援助ではない

前にも記した通りエチオピアなどアフリカ諸国の飢饉が再び伝えられているが、二、三年ごとに食糧援助のためにエチオピアとスーダンに戻ってこなければならぬのは、我々がなにか間違っているからで、とクリスチャン・サイエンス・モニター誌の記事は指摘している。スーダン南部で数年間も反乱軍に囲まれている約30万人の人々に対する空からの食糧救援物資には、種子と農具が入っていた。人々は今では500エーカーの土地を耕し野菜を栽培している、という。単に食糧が不足だから食糧を送ればよいという対処療法ではだめだという主張である。

World Development Forum Vol 9 No 3から

### 子どもの遊び 列車サーフィン

ラテンアメリカでは希望を失った世代のことが話題になっている。リオデジャネイロでは未来に希望がもてないので、列車サーフィンという遊びがストリートチルドレンの間ではやっている。時速120kmの早さで走る列車の屋根の上にのぼって、3,300本の電線のわきにたつのである。1987年から88年にかけての18か月の間に、この遊びで200人が死に、500人が大怪我をしたという。

ブラジルの青少年は生きていることの理由を見つげられないほど苦しい生活を強いられ

ているので、死にいたる遊びにたわむれる、という。

World Development Forum Vol 9 No 3から。この号では三つの記事を取り上げましたが、これまでも世界の開発問題のニュースソースとして利用してきた Hunger ProjectのWorld Development Forumがこの二月をもって廃刊になりました。理由は明示されていませんが、多分財政上の問題だろうと思われる。

### お知らせのご案内です

会員団体や関係団体からの催しごとのお知らせのご案内です。実施の日付の早い順、そして日付にかかわりないものです。

#### § 第三世界理解講座

日本国際ボランティアセンターでは5月22日から7月10日までの毎水曜日午後6時半から、横浜市の神奈川県国際交流センターで第三世界理解講座を開きます。参加費5,000円。定員制ですので、JVC神奈川（電話045-671-7082）まで問い合わせを。

#### § 外国人労働者を知る講座

カラバオの会では外国人労働者のおかれた現実を知る連続講座の一環として、5月24日（金）午後6時半から横浜石川町の勤労会館で「なぜ出稼ぎなのか」を考える会を開きます。参加費500円。問い合わせは電話045-662-5699のカラバオの会へ。

#### § 東京グリーンウォーク'91

発展途上国で活動している日本のボランティア団体（首都圏の8団体）を知り支援するための歩く集いが、5月26日（日）午前10時から3時間の予定で、東京の江戸川沿いに行われます。主催は東京グリーンウォーク実行委員会ですが、日本国際ボランティアセンター（03-3834-2388）などに問い合わせのこと。

#### § スリランカ体験ツアー

第3世界ショップ開発教育研究所では7月



28日から9日間の予定でスリランカ体験ツアーを企画しています。費用約25万円。03-3791-2147 西村さんへ問い合わせのこと。

#### § フィリピンスタディツアー

フィリピン情報センター・ナゴヤと名古屋学生センターでは8月20日から月末までの予定でフィリピン民主化学習旅行を企画しています。費用は21万円。052-781-0165 池住さんに問い合わせを。

#### § 古はがきでラオス支援を

日本国際ボランティアセンター・ラオスチームでは、活動資金にするために、古い未使用あるいは書き損じのはがきを集めています。ご協力ください。またラオスチームは子どもの記念日寄金キャンペーン用にスライド、パネル、絵はがき、小冊子などを用意しています。いずれも03-3834-2388までご連絡を。

ユニセフ活動事例集 第三集発行  
協会の事務所 移転しました

日本ユニセフ協会は「わたしたちのユニセフ

フーユニセフ活動実践事例集」第三集を発行しました。第二集がでたあと四年ぶりですが、小学校から高等学校まで全部で25の活動事例を収録しています。ご希望の向きはお申し込みください。

なお、日本ユニセフ協会は東京都港区から新宿区大京町31-10 第一大京町ビルに移りました。郵便物は 〒163-91 新宿郵便局私書箱123号でどうぞ。電話は協力事業部、学校募金部、総務部は03-3355-3221、カード事業部は03-3355-3255です。

#### 協議会事務局から

##### ▽ 第48回理事会

3月1日の午後開催し、91年度事業計画と予算案、総会、研究集会について協議した。

##### ▽ 第37回運営会議

3月20日の夜開催し、定期総会への運営や準備、そして夏の研究集会について相談した。

##### ▽ 第38回運営会議

4月25日の夜開催し、夏の研究集会について相談した。

#### 【新入・継続会員】 (敬称略、3月1日～4月30日、到着順)

##### <新入会員>

今西貴子(千葉) 片山俊夫(兵庫) 花田ゆかり(神奈川) 宮島美佐恵(大阪) 豊田高広(静岡) 今林弓子(埼玉) 岩佐ゆかり(東京) 石井良重(東京) 鈴木啓之(東京) 川上多美子(高知) 園崎寿子(大阪) 出丘 学(東京) 片平力也(千葉) 長谷川潤(埼玉) 桑原直子(静岡) 森田敏彦(埼玉) 九州開発教育研究会(長崎)

##### <継続会員>

鈴木寛一(東京) 中村英重(徳島) 高橋千夏(京都) 山中あゆみ(埼玉) 森 良(東京) 金沢はるえ(東京) 伊東直子(東京) 田村和凡(東京) 新日本宗教青年会連盟(東京) 廣田育男(茨城) 馬越 徹(名古屋) グローバルエイジ(東京) 真実一美(岡山) 原 真一(愛知) 福田 菊(京都) 菊永訓江(東京) 中里亜夫(福岡) アンセルモ・マタイス(東京) 田中亜子(大阪) 中川哲夫(栃木) 大阪YMCA国際文化センター(大阪) 藤野祐子(京都) 脇坂晴久(宮城) 棚橋和正(東京) 荒木敏之(大阪) 大塚雅信(千葉) 北田 博(大阪) 菅又雅章(栃木) 上岡直子(USA) 渡辺 良(東京) 草地賢一(兵庫) 日本シルバーボランティアズ(東京) 中島隆宏(愛知) 山根和代(高知)